ガソリン上値重く

6月下旬の道内 平均127・4円 6週連続値上がり

道内ガソリン市況が上値の重い展開となっている。6月下旬の道内平均価格は1㍑当たり127・4円で6週連続の値上がりとなったが、販売激戦区の札幌や函館では値上げした価格を戻す店舗も出ていて流動的だ。新型コロナウイルスによる外出自粛の余波から、いまだガソリンや軽油の販売量は落ち込んだままで、多くの石油販売業者はボリューム減とマージン薄の二重苦にある。

札幌、函館で再値下げも

資源エネルギー庁の発表によると、6月22日現在の道内ガソリン平均価格は127・4円で前週比0・3円上昇した。5月中旬から6週連続の値上がりで、6月の上昇幅は累計で6・2円となった。軽油は110円で0・1円の上昇。6月の上げ幅は5・7円だった。

札幌市内は125円前後のガソリン価格を掲げる店舗が目立つ。だが、6月中旬から118円ほどに値戻しする安値量販店も出ていて、販売方針によって二極化している。

激戦区の函館は、100円割れするスタンドが一時出るなど大荒れにあったが、6月中旬に地元業者を中心として119円まで是正が進んだ。だが足元の価格は114円が目立ち、元の状態に戻りつつある。

ガソリンスタンドの販売価格でベースとなる石油元売りの卸価格は、原油相場の回復から値上がり基調にある。欧米を中心に新型コロナウイルスによる行動規制の緩和が進み、石油製品の需要環境が改善したため。目下の原油先物市場は、米国産標準油種WTIで1バレル当たり38ドル前後で推移している。

函館市内の石油販売業者は「卸価格が値上がりしているのに、販売価格を上げられないのは苦しい」と話す。一時は120円近くまで是正したが、販売競争に巻き込まれ1週間ほどで元のもくあみとなった。

新型コロナウイルス感染防止が目的の外出自粛から、道内ガソリンスタンドの多くは前年度より販売量を大幅に落としている。副業のレンタカー事業も壊滅的な状況にあり、経営内容は非常に厳しい。行動規制が緩和を受けた現在も余波は残り、「8月の販売量が今期の経営を左右しそう」（函館市内の販売業者）と危機感を持っている。

塗り床材 剥離リスク減

大林組など工法開発 床仕上げ高品質化に

大林組はアルファ工業（本社・横浜）と共同で、下地コンクリートに浸透して塗り床材の剥離リスクを低減する浸透一体型塗り床工法「アンカープロテクション」を開発した。同社西日本ロボティクスセンター整備棟の安全通路や大型物流施設の床などに適用。床仕上げの高品質化を提案し、顧客のニーズに応える。

物流施設や生産施設で床面に着色仕上げを施す場合、一般にセメント一体型塗り床材やエポキシ樹脂系塗り床材を採用する。

セメント一体型塗り床材は粉体の散布量や金ごて押さえのタイミングなど施工が難しく、色むらや変色が発生することがある。

エポキシ樹脂系塗り床材はコンクリートの硬化後に施工するため色むらや変色は生じないものの、重量物落下やフォークリフトの走行などの外剥離発生が懸念される。一部が剥がれると、そこを起点に剥離が一気に進むことから補修のために動線変更といった大きな問題に発展する。

アンカープロテクションは高浸透性のエポキシ樹脂系塗り床材。硬化したコンクリート表層に浸透することでコンクリートと一体化。コンクリートと塗り床仕上げ層との界面が存在しないため、塗り床材が剥離するリスクが低減され、仕上げ層

ビルエネ効率に関する調査

日本の関心は回復力

ジョンソンコントロールズ

ジョンソンコントロールズ（本社・東京）は、日本を含む世界11カ国1300人のエネルギー・設備管理責任者を対象に実施した「2019年ビルのエネルギー効率に関する調査結果」をまとめた。日本のビルインフラ投資でレジリエンス（回復力）への関心が大幅に高かった。人工知能（AI）やIoT技術の活用により事業継続性・サスティナビリティを実現するスマートビルが注目されている実態が明らかになった。

調査は07年からエネルギー・設備管理責任者を対象に実施している。

13回目の今回は、11カ国（日本、ブラジル、中国、フランス、ドイツ、インド、アイルランド、メキシコ、アラブ首長国連邦、英国、米国）の1300人が対象。日本からは19年11月22日から12月10日にかけて100人の回答を得ている。

日本の回答では、ビルインフラ投資でレジリエンスを重視するという回答が18年の前回調査から22ポイント増加して88%。世界平均の80%よりも高かった。

エネルギー効率化投資の原動力は世界、日本ともに「エネルギーコストの削減」が最多。日本はグリーンビルディング認証の取得（計画を含む）と、認証を取得したビルの賃貸スペースについて割り増し賃料の支払いに積極的と回答した割合が世界平均よりも12―16ポイント高く関心の高さがうかがえた。

今後1年で再生可能エネルギーやスマートビルテクノロジーへの投資を拡大するとした組織は75%。前回調査と比べ15ポイント増加し、米国と並びドイツに次ぐ2位に位置する結果となった。

今後5年間で、IoTやデータ解析・機械学習、サイバーセキュリティーがスマートビル実現に大きな影響を与える技術トレンドとして注目されていることが分かった。

同社は「日本ではセキュリティー、防火・防災とビルシステムとの統合が進んでいる」とし、「ビル内のビッグデータを活用したスマートビルの実現が加速することが予測される」としている。

アクティオ 場所選ばず快適作業

オフィスカーのレンタル開始

快適に事務作業ができる

アクティオ（本社・東京）は、太陽光パネル搭載オフグリッドオフィスカーのレンタルを始めた。暑い夏場でも場所を選ばず快適に事務作業やミーティングができる。

新型コロナウイルスの影響で、テレワークの推奨や3密回避徹底など働き方が大きく変わろうとする中、時間や場所に縛られず仕事の効率を高め、快適に事務作業できる車を開発した。エンジン停止状態でも備え付けのルームエアコン、冷蔵庫、AC100ボルト電源などを使うことができる。

車両はトヨタ・ハイエースのバンDXで、事務作業とベットポジションに車内レイアウトを変更可能だ。太陽光パネルを備えていて、電力の自給自足も実現。冬場はエンジンをオフにしてもFFヒーターが働き、暖かく快適に使える。

短期間工事の現場事務所、打ち合わせスペースとしての活用を見込む。事務所に戻る必要がないため、現場担当者の報告時間短縮につながる。屋根はポップアップ式のため風通しが良く、室内で立ったまま着替えることができる。

コロナ禍がきっかけ 熱中症意識4人に1人

タニタ調査 マスク着用など受けて

タニタ（本社・東京）は「熱中症に関する意識・実態調査2020」の結果を公表した。コロナ禍をきっかけに熱中症を意識した人が4人に1人に上った。マスク着用などによる新しい生活様式が背景にあるとみられる。

調査は2019年に続いて2回目。全国の15―69歳の1000人を対象に、6月5日から8日にかけてインターネットリサーチを実施した。

どのようなときに熱中症を意識するかを尋ねた。最も多かったのは「屋外でスポーツ・運動をしているとき」で38・2%。「特になし」は前回調査から5・9ポイント増の19・5%で、5人に1人となった。同社は「新しい生活様式の下、炎天下で長時間過ごす機会が減ったことが影響している」と分析している。

熱中症を意識することがある805人に、熱中症を意識するようになったきっかけを質問した。トップは「昨年の夏が酷暑だった」で41・5%。「新しい生活様式での熱中症が話題になっていた」は23・7%と、4人に1人に上ったことが特徴的だ。

新型コロナウイルスの感染予防としてマスク着用が生活の一部となっている。猛暑日でも6割、外で運動する際でも4割がマスクを着用すると回答した。

水中ドローン操作学ぶ

建設イノベ推進機構が講習会

基本操作を学んだ

建設イノベーション推進機構は26日、札幌市中央区のダイビングショップで水中ドローン初心者向け基礎講習会を開いた。建設コンサルタント会社2社から2人が参加。操作方法を習得した。

日本水中ドローン機構とアイ・ティ・エス（本社・札幌）との共催。建設コンサルタンツ協会認定のCPDプログラムとして開催した。水中ドローンのCPDプログラム登録講習は珍しいという。

はじめに、水中ドローンの用途と講習で使う機種の特長を説明。参加者はその後、ダイビングプールを使い水中ドローンの基本操作を学んだ。最後に応用として、構造物に見立てたブルーシートの下にドローンを潜らせたり、ロープをたどってカードに書かれている番号を確認したりする訓練をした。

講師は「現場は濁っていたり、波の影響を受けたりすることがある。画面を見ながらはもちろん、ドローンがどの位置でどのような動きをしているのかイメージして」とアドバイスを送っていた。

水中ドローンは橋脚の点検や養殖場の海藻資源量調査などで導入事例がある。作業効率の向上や安全性確保につながるとして、さらなる普及が期待される。

日本水中ドローン機構は、水中ドローンの普及と利用促進を目指し、2019年8月に発足した。

下川紘資代表理事（アイ・ティ・エス副社長）は「最新機種が次々出ている。各機種の特長を伝え、実用的に使えるよう、今後も講習会を開きたい」と話している。

iPhone対応 高速充電器発売

エレコム

エレコムは、iPhoneやiPadを高速充電できるUSB AC充電器「ACDC―PD0630シリーズ」を発売した＝写真。小型・軽量タイプで出張時の持ち運びに最適だ。

IC回路にはシリコン半導体に替わりに窒化ガリウムを採用。最大出力は30ワットで高速充電が可能。最大100ワットの高電力に対応する。

USB Type―Cコネクタを搭載したPower Delivery規格正規認定品。充電する端末に合わせて出力電圧と出力電流を自動で調整する。

幅48×厚み26×高さ39ミリで重さは65グラム。色はブラックとホワイトを用意する。価格は6730円（税抜き）。

防水工法。屋根耐火30分認定仕様
る下地に対応。優れたコストパフォーマンス。
化ウレタンを使用するため高精度な施工を実現。
風強度＋防音効果を実現。

建設新聞見たで
シングル（朝食付）¥6,600

大型車駐車場完備・飲食店街隣接
ホテル イースト HOTEL EAST
〒057-0033 北海道浦河郡浦河町堺町東1丁目7-22
TEL：0146-22-8811 FAX：0146-24-2401